

厚生労働行政推進調査事業費補助金
(新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業)
(分担) 研究報告書

成果発表イベント「コロナELSIナイト」の開催および情報保障について

研究代表者	武藤 香織	東京大学医科学研究所 教授
研究分担者	井上 悠輔	東京大学医科学研究所 准教授
研究分担者	藤田 卓仙	慶應義塾大学 特任准教授
研究分担者	東島 仁	千葉大学大学院 准教授
研究分担者	磯部 哲	慶應義塾大学大学院 教授
研究分担者	山本 龍彦	慶應義塾大学大学院 教授
研究協力者	小川 有希子	帝京大学 助教
研究協力者	河嶋 春菜	慶應義塾大学 特任准教授
研究協力者	永井 亜貴子	東京大学医科学研究所 特任助教
研究協力者	井口 高志	東京大学大学院 准教授
研究協力者	山下 幸子	淑徳大学 教授
研究協力者	土屋 葉	愛知大学 教授
研究協力者	中根 成寿	京都府立大学 准教授
研究協力者	石橋 真帆	東京大学大学院 博士後期課程
研究協力者	奈良 由美子	放送大学 教授
研究協力者	李 怡然	東京大学医科学研究所 助教

研究要旨

本研究班の研究成果の対外的な発信と、各テーマの議論をより発展させることを目的に、2022年3月24日(木)、25日(金)の2夜連続で、オンラインイベント「コロナELSIナイト～みんなで倫理的法的社会的課題を考える～」を開催した。成果の発信にあたっては、障害の有無や内容にかかわらず、同等の情報が確保されるようにする「情報保障」の考え方が重要とされることから、聴覚障害をもつ方への情報保障として、試行的に遠隔での手話通訳・文字通訳を取り入れた。準備段階では、報告者・司会者間で発話や画面構成における留意点を入念に情報共有し、リアルタイムで滞りなく通訳と進行を進められるよう準備を整えた。

第1夜は「生命・公衆衛生倫理」「法令・制度」「デジタル技術」、第2夜は「患者・市民参画」「偏見・差別」「地域包括ケア」「リスク・コミュニケーション」と、関連性の高いテーマごとに、各テーマ20分ずつの報告、後半に総合討議・質疑の構成で実施した。各日ともに、テーマ間で相互に重なる論点が多く登場し、報告者間のディスカッションを深めることができた。参加者アンケートでは、手話通訳・文字通訳への好意的な評価や情報保障が今後さらに普及することへの期待が寄せられた。本イベントの開催を契機に、COVID-19により生じうるELSIについてひろく社会に知見が共有されるとともに、情報保障の意義やノウハウが他のイベント運営にも生かされることを期待する。

A. 研究目的

本研究班の約2年間の研究期間にわたる活動と成果を対外的に発信するとともに、各サブ・グループ間の議論を深める目的で、オンラインでの成果発表イベントを実施する。成果の発信に際しては、「情報のやりとりを行う際に、障害の有無や内容にかかわらず、実質的に同等の情報が確保されるようにする」考え方を「情報保障」といい、障害の特性に応じた配慮が求められる¹⁾。コロナ禍において、オンライン環境でのイベント開催が増加したことで、遠隔地の方や、疾病や障害など様々な理由により移動が難しかった方も含め、より多くの人に参加しやすくなったというメリットが挙げられる。しかし、それでもなお、情報へのアクセスが困難な方がいることにも配慮し、運営方針を検討することが重要である。そこで、情報保障の考え方に基づいた研究成果のアウトリーチと社会との対話を実現するために、遠隔での手話通訳・文字通訳を試行的に導入し、ノウハウや課題点を共有することを通じて、今後のよりよい情報保障のあり方を検討することを目指す。

B. 研究方法

1. イベントの概要

2022年3月24日(木)、25日(金)の19時～21時に、2夜連続の成果発表イベント「コロナ ELSI ナイト～みんなで倫理的法的社会的課題を考える～」を企画した。新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止、および国内外に在住するより多くの方に参加いただけるよう、オンライン会議システム Zoom を使用したウェビナー(オンラインセミナー)形式とした。相互に関連性の高いテ

ーマごとに、第1夜は「生命・公衆衛生倫理」「法令・制度」「デジタル技術」、第2夜は「患者・市民参画」、「偏見・差別」「地域包括ケア」「リスク・コミュニケーション」と2日間にわけ、各グループ20分ずつの報告、質疑応答・総合討論の構成とした。学術関係者だけでなく、一般の方にも参加いただけるよう、イベント管理サイト Peatix(ピーティックス)を利用して周知と募集を行った(報告者等の詳細は、「資料 Peatix 公開ページ」を参照)。

2. 情報保障への対応

Peatix を使用した参加者受付において、視覚障害などが理由でオンラインフォームが使用できない方がいることを想定し、読み上げソフトに対応したメールでの参加申し込みを受け付けること、そのほか特別な配慮を希望する場合は申し添えてもらうこととした。

聴覚障害のある方への情報保障の方法には、手話通訳、および文字通訳(または要約筆記)と呼ばれる、音声で聞き取った話を要約筆記者が要約し、パソコン等で文字に書き表して伝える方法があり²⁾、いずれを希望するかは人によって異なる。そこで、株式会社ミライロ・コネクト(<https://mirairo-connect.jp/>)に依頼し、遠隔での手話通訳および文字通訳サービスの両方を依頼した。文字通訳には、①Zoomの画面上における字幕の表出、②captiOnline(キャプションライン)と呼ばれるシステム(<https://captionline.org/>)を用いたウェブブラウザへ表出、といった方法がある。①の方法は Zoom 上の一画面で閲覧できる

こと、②は参加者自身が、Zoom 画面とは別にタブレットやスマートフォン等のデバイスを用いて、任意のタイミングでスクロールして字幕を閲覧できることから、利便性を重視し、①②両方の方法を併用した。

運営にあたっては、第 18 回障害学会大会の大会長として、先行して手話通訳・文字通訳を取り入れたオンラインイベント運営を実施した経験のある班員の山下幸子より運営や司会のノウハウを提供いただき、参考にした。また、2 月 15 日に班内で情報保障に関する打ち合わせと情報交換を行い、それを踏まえて以下の留意点を共有した。

< 報告準備について >

- ・ 同時通訳を行うため、発表者は発話のスピードに注意し、通常よりも意識してゆっくりと話すこと
- ・ 手話通訳者は、同時通訳の負担が大きいため 20 分ごとに交代すること、この点も踏まえて時間管理を厳格に行うこと
- ・ 視覚障害のある方が参加されることを念頭に、「あれ」「これ」等の指示語の使用を避け、図表についてはわかりやすく言葉で補足説明を行うこと

< 当日の進行や発話について >

- ・ 手話通訳・文字通訳の画面が小さくなると、見えづらくなるため、通常は報告者または司会者の 1 名のみ、総合討論時は最大で 2 名のみがカメラをオンにし、表示される画面の数が増えないように注意すること
- ・ 報告者は司会の進行指示に従い、発言開始時にカメラとマイクをオンにし、発言終了時にオフにすること
- ・ 発言時に毎回必ず氏名を名乗ってか

ら発話を始めること

- ・ 同時に 2 名以上が話し出すことはな
いよう、発話の順番に注意すること。

< 質疑応答について >

- ・ 司会者もしくは報告者が Zoom の Q&A 機能に書き込まれた質問の内容を読み上げ、音声で回答すること
- ・ 視覚障害等の理由で、Zoom の Q&A 機能が使用できない参加者には、運営のメールアドレス宛に質問を送信してもらうこと

また、専門性の高い内容や固有名詞に関して通訳の精度をできるだけ高めるために、約 1 週間前に、報告者が投影予定のスライドのノート欄に説明内容もしくは読み上げ原稿を記入したファイル、挨拶・司会原稿および進行表を通訳者に共有した。当日の開始 1 時間前に、通訳者と、報告者・司会者・運営スタッフ間の打ち合わせ、カメラのオンオフや発話の練習を行い、できるだけスムーズな進行を行えるよう準備を整えた。

C. 研究結果

1. 結果

(1) 各班の発表内容と議論の概要

< 第 1 夜 >

「生命・公衆衛生倫理」班からは、日本国内のコロナ人権条約の成立および変遷に関する検討結果が報告された。新型コロナウイルス感染症に特化した条例が自治体各地でつくられた経緯、自治体独自の罰則規定が導入された経緯に加えて、人権条例をもうけた自治体数の時系列にみた変化と条例の主たる対象、具体的にどのような差別的な取り扱いの禁止が規定に盛り込まれたか

など、調査結果と考察が示された。

「法令・制度」班からは、新型コロナウイルス感染症対策の仕組みおよび運用上の法的課題をテーマに報告が行われた。公衆衛生上の基本的人権の保障や民主的統制の問題、専門家と政府の関係、国・地方関係、医療提供体制に関して、日本とフランスとの比較を踏まえた考察が行われた。続いて、検疫法に基づく水際対策、感染症法に基づく入院と自宅療養・宿泊療養、予防接種、情報の利用の4点に関して、個別具体的な課題点が提起された。

「デジタル技術」班からは、接触者確認アプリの導入・活用状況、新型コロナ対策の業種別ガイドライン、海外の人との往来や大規模イベント再開に伴うデジタル技術、デジタル関連技術に対する人々の態度に関する調査、の4点が報告された。海外各国におけるIT活用の事例を紹介しつつ、日本における感染症のデータ取得・管理のシステム、本人同意をベースにした個人情報の取り扱いがなされているという特徴が指摘された。ウェブ調査や運用の経緯を検討した結果を踏まえて、デジタル技術の活用における複数の課題がまとめられた。

総合討論においては、報告者のあいだで、「法令制度」班が言及したフランスにおける市民会議とワクチンパスの制度導入への関与の程度、「デジタル技術」班のウェブ調査における各技術への賛否の関連性についての質問が交わされ、さらに行政法および憲法学の立場から、3つの発表に関連してコメントが寄せられた。参加者からは、未知の感染症への恐怖がもたらす問題、感染者の情報公開と人権保護の両立のあり方について質問があり、報告者からそれぞれ回答が

なされ、第2夜の報告テーマとも関連する論点に議論が及んだ。

<第2夜>

「患者・市民参画」班より、リスク・コミュニケーション、コミュニティ・エンゲージメント、研究への患者・市民参画(PPI)の3つに注目し、これらの国際的な定義や英語圏での取り組みの先例が報告された。COVID-19対策や研究において、患者・市民参画や協働が不可欠であるという声明や、実践手法をまとめたガイドライン等が紹介された。また、国内の感染者による体験談のデータベース構築、東京都の宿泊療養施設で実施したアンケート調査結果から、人々からどのような不安や要望、メッセージが寄せられているかの分析結果が報告された。

「偏見・差別」班からは、COVID-19感染者に対する差別的言動のきっかけであると指摘されている、感染者の情報公表に焦点を当てて報告がなされた。都道府県および保健所設置市の情報公表を調査し、厚生労働省による公表基準に照らして、公表する情報と公表しない情報がどの程度公表されていたか、分析結果が示された。また、企業による従業員の感染に関する実態として、プレスリリースの調査結果が報告された。加えて、韓国と日本で行ったウェブ調査から、両国の市民の間で感染者の情報公表に対する意識の違いがあるという点が指摘された。

「地域包括ケア」班からは、コロナ対策によって、地域包括ケアの理念の実行が困難な状況に置かれたという問題意識を出発点に、感染対策と地域でのケアの実践との間のジレンマや工夫について、複数地域の団

体に実施した聞き取り調査結果が報告された。4大都市圏において、福祉サービス従事者や提供責任者、事業経営に及ぼした影響等、濃厚接触者と判定された福祉サービス利用者の事例とともに紹介があった。また、陽性者確認のタイミングにラグがあった特定地域の事例をもとに、感染拡大状況に伴う人々の意識や行動の変化が考察された。

「リスク・コミュニケーション」班からは、国際的な定量的調査を実施し、市民のリスク認知の結果を分析した結果が報告された。特に日本では、恐ろしさや未知数が高いものとして、COVID-19を危険視しており、それらが人々の感染防止行動とも関連していた可能性が指摘された。また、統計に埋もれがちな当事者や少数者の意見を明らかにするために実施した市民との継続的対話に基づき、類型化した一般的論点およびワクチンをめぐる論点、インプリケーションが示された。加えて、スケッチ・ダイアログの手法として汎用化することの意義や課題が提起された。

総合討論・質疑応答の時間では、参加者から、公衆衛生の施策に患者の声を生かす際に、短期的な場合と中長期的な場合それぞれのような方法や違いがあるのかという質問があり、「患者・市民参画」班の視点から回答があった。関連して、市民からの声を、施策を作る国や自治体に届けるための手段についての質問があり、政府の対策や東京都のアドバイザーに関与している立場、地域の現場の聞き取りをしてきた立場として、各報告者より回答がなされた。さらに、地域における感染者確認とプライバシー保護の問題、自治体による感染者の情報公表のあり方、感染症に対する人々のリスク認

知を政策決定者が把握すること、地域の福祉・ケアの現場にいる実践者の声をどのように施策に生かせるか、といったような、4つのテーマが相互に関連する議論に発展した。

(2) 参加者アンケートの結果

本イベントには、第1夜は92名、第2夜は111名の事前申し込みがあり、終了後の参加者アンケートには計44名の回答があった。立場は研究者・学術関係者24名(54.4%)、医療・介護・障害福祉従事者12名(27.3%)、患者・障害者・家族・当事者団体関係者7名(15.9%)、学生4名(9.1%)、一般8名(18.2%)、属性について性別でみると、男性10名(22.7%)、女性30名(68.2%)、答えたくない4名(9.1%)、年代別では20代3名(6.8%)、30代7名(15.9%)、40代14名(31.8%)、50代6名(13.6%)、答えたくない2名(4.5%)であった。

発表の内容に関して、「様々なアプローチの説明が聞いて興味深かった」、「感染症対策にフォーカスし、倫理面がなおざりになったことに気づかされた」、「感染者・家族の意見をどのように行政に反映させるかという点について興味をもった」等の感想があった。

また、手話通訳・文字通訳に関しては、「手話や文字通訳が時間差なく確認できた」「通訳があったから参加できた」、「文字通訳のおかげで、うまく聞き取れないところを理解できた」「ELSI関連のテーマに限らず、情報保障がもっと広まってほしい」等、聴覚障害がないと思われる参加者も含め、好意的な意見が多く寄せられた。

2. 考察

COVID-19対策で生じたELSIの論点をマッピングし、7つのサブ・テーマごとに活動してきた本研究班の活動成果を、オンラインイベントを通じて対外的に発信した。第1夜、第2夜ともに、報告者同士での活発なディスカッションや参加者との質疑応答が行われ、法令制度および人権保護とデジタル技術、感染症に対する未知性・恐怖感と情報公表、地域における感染者のプライバシー保護、患者・市民参画とリスク・コミュニケーションなど、相互に重なる議論が多く展開された。参加者のアンケート結果からも、多角的なアプローチからの発表に関心をもってもらえたことが伺えた。手話通訳・文字通訳を取り入れたイベントは運営側やほとんどの報告者にとっては初めての経験であったが、専門性の高い内容や固有名詞を含む報告資料を通訳者に事前に共有すること、発話やカメラのオンオフのタイミングに留意して報告を行うことで、スムーズな進行につながられたと考えられる。

今回は、主として聴覚障害のある方への情報保障として、手話通訳・文字通訳を導入したが、すべての障害の特性に配慮した対応ができていないという限界もあり、情報提供の手段については、さまざまな工夫も考えられる。もっとも、本イベントの開催を通じて、報告者および参加者の双方ともに、情報保障に対する理解と重要性の認識が高まったという点での意義は高く、今後の他のイベント運営にも資すると考えられる。

3. 結語

オンライン成果発表イベントの開催を通じて、7つのサブ・テーマごとに、本研究班

のこれまでの研究成果の概要が発信された。報告者同士の議論が深まることで、研究成果の相互参照やさらなる発展につなげたい。

また、リアルタイムでの遠隔による手話通訳・文字通訳の導入を通じて、聴覚障害の有無にかかわらずより多くの方に参加してもらうことができた。本会の開催を契機に、運営ノウハウや課題点が共有され、今後さまざまな機会において情報保障に配慮したイベントが実現することを期待したい。

【謝辞】

手話通訳・文字通訳に関して、株式会社ミライロ ビジネスソリューション部 コネクトチーム、派遣通訳者の皆様のご指導とご支援を頂いた。

イベント運営に関してご協力頂いた神野浄子学術専門職員をはじめ、東京大学医科学研究所 公共政策研究分野の各位に御礼申し上げます。

【参考文献】

- 1) 千葉県健康福祉部障害福祉課. 障害のある人に対する情報保障のためのガイドライン (平成29年3月改定). 2017. <https://www.pref.chiba.lg.jp/shoufuku/shougai-kurashi/jouhouhoshou/documents/jgl.pdf>.
- 2) 千葉県健康福祉部障害福祉課. 障害のある人に対する情報保障のためのガイドライン (平成29年3月改定) 別冊 障害のある人に対する情報保障のためのハンドブック. 2017. <https://www.pref.chiba.lg.jp/shoufuku/shougai-kurashi/jouhouhoshou/documents/jhb.pdf>.

D. 健康危険情報

(分担研究報告書には記入せずに、総括研究報告書にまとめて記入)

E. 研究発表

1. 論文発表
なし

2. 学会発表
なし

F. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得
なし

2. 実用新案登録
なし

3. その他
なし

(資料) peatix 公開ページ (https://covid19-elsi-night.peatix.com/)

Peatix
検索
グループ / イベントを始める
マイチケット
東大医科研・公共...

グループ
イベント
ホーム
参加者
公開ページ
編集
視聴
集客
共同管理
その他

共有用の URL: https://covid19-elsi-night.peatix.com/

ツイート

エルシー
コロナELSIナイト

～みんなで倫理的法的社会的課題を考える～

厚生労働科学研究 成果発表

2022.3.24(木)-25(金)

19:00-21:00 @オンライン

参加無料

手話通訳・文字通訳あり

コロナELSIナイト～みんなで倫理的法的社会的課題を考える～

詳細

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の流行は、私たちの社会や暮らしに大きな変化を与え、これまでにない対応を迫られました。COVID-19対策が長期化するにつれて、さまざまな倫理的法的社会的課題(ELSI; Ethical, Legal and Social Implications/Issues, 「エルシー」)も生じています。

私たちは、COVID-19により生じうるELSIを生命・公衆衛生倫理、法令・制度、デジタル技術、患者・市民参画(PPI)、偏見・差別、地域包括ケア、リスク・コミュニケーションの7つのテーマにわけて考え、1年半にわたって調査や研究を続けてきました。

このオンライン・イベントでは、2夜連続で、7つのテーマごとにこれまでの活動を紹介し、ます。どなたでも、お気軽にご参加ください。参加費は無料です。

□開催概要

日 時：2022年3月24日(木)、25日(金) 19時～21時
開催形式：ウェブ会議システムzoomを使用したウェビナー（オンラインセミナー）
*リアルタイムのみの開催となります。動画の事後配信はございません。

□プログラム（※スピーカーと順番は、後日変更になる可能性があります）

<第1夜> 3月24日(木)

1. 生命・公衆衛生倫理
東京大学 医科学研究所 准教授 井上 悠輔
2. 法令・制度
帝京大学 法学部 助教 小川 有希子
慶應義塾大学 グローバルリサーチインスティテュート 特任准教授 河嶋 春菜
3. デジタル技術
慶應義塾大学 医学部 特任准教授 藤田 卓仙
4. Q&A・ディスカッション

<第2夜> 3月25日(金)

1. 患者・市民参画
千葉大学大学院 国際学術研究院 准教授 東島 仁
東京大学 医科学研究所 教授 武藤 香織
2. 偏見・差別
東京大学 医科学研究所 特任助教 永井 亜貴子
東京大学 医科学研究所 教授 武藤 香織
3. 地域包括ケア
東京大学大学院 人文社会系研究科 准教授 井口 高志
淑徳大学 総合福祉学部 教授 山下 幸子
愛知大学 文学部 教授 土屋 薫
京都府立大学 公共政策学部 准教授 中根 成寿
4. リスク・コミュニケーション
東京大学大学院 学際情報学府 博士後期課程 石橋 真帆
放送大学 教養学部 教授 奈良 由美子
5. Q&A・ディスカッション

(進行)
東京大学 医科学研究所 助教 李 怡然

2022/3/24 - 3/25
[木] - [金]

19:00 - 21:00 JST

[📅 カレンダーに追加](#)

会場 オンライン

チケット

3月24日(木) 19:00-21:00 ~ 3月24日 0:00

3月25日(金) 19:00-21:00 ~ 3月25日 0:00

主催者

東京大学医科学
研究所 公共政
策研究分野
フォロー数: 155

□ 対象

ご関心のある方はどなたでも歓迎です。

□ 参加費

参加費は無料です。

□ 手話通訳・文字通訳について

情報保障の観点から、手話通訳および文字通訳（話した言葉の要約を字幕に表示する）が入ります。スマートフォンの画面では、手話や字幕が見づらくなる可能性がありますので、できるだけパソコンやタブレットなどでご覧になることをお勧めします。なお、文字通訳は、Zoom内での字幕表示に加えて、別途ブラウザで表示させることも可能です。ブラウザでひらく場合は、Zoomをひらく画面とは別のデバイスをご用意することをお勧めします。

□ 申込方法

右の[チケットを申し込む]ボタンより、お申込みください。

* 視覚障害などの理由で、Peatixの申込みが難しい方は、メールでも参加を受けつけております。画面下のお問い合わせ先までご連絡ください。

□ 申込期限

各開催日の前日に締め切らせていただきます。

<第1夜 3月24日（木）> : 2022年3月23日（水） 23:59

<第2夜 3月25日（金）> : 2022年3月24日（木） 23:59

* 2夜ともご参加される場合は、申込画面にて、両方の開催日をお選びください。

接続先URLは、3/24・25当日の 18:50頃、Peatix内で公開します。

開催日ごとに、接続先URLが異なりますので、ご注意ください。

案内メールはお送りいたしませんので、開始時間が近づいたら、ご自身でPeatixにログインの上「チケット」よりイベント視聴ページにアクセスをお願いします。

なお、接続先URLの視聴ページは、申込を完了された方のみが閲覧可能です。

□ 主催

厚生労働省厚生労働行政推進調査事業費補助金「新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の倫理的・社会的課題（ELSI）に関する研究」（東京大学）

本イベントに関するお問い合わせ先

event@pubpoli-imsut.jp

隠す

メディカル/ヘルスケア

医療

健康

病と生きる

サイエンス

福祉

追加情報

イベント詳細情報を更新しました。差分 2022-03-11 02:45:39

過去の更新

